



さつきが丘 12月号 第321号



～ 自分を認め 相手を認め ～

校長 秋山 順子

令和元年も、残すところ1か月となりました。今年の流行語大賞に「ワンチーム」をはじめ「4年に一度じゃない。一生に一度だ」等ラグビー関連のものが多数ノミネートされていました。日本の大活躍に感動し、サポーターも勝利に涙し、選手とファンが一つになった大会だったからだと思います。

さて本校でも、サッカー・バスケットに分かれて5年生の球技交流会が開催され、つつじが丘小学校と対戦しました。子どもたちは全力でプレーし、両校の応援も大いに盛り上がり、白熱した試合で交流を深めることができました。

また、先日横浜マラソンの応援ボランティアにも有志の児童が参加しました。35km付近の本牧ふ頭でゴールまで6kmという一番苦しい第15給水所です。鳴子をもって「横浜い〜じゃん」や「東京五輪音頭」を踊るのですが、最初のランナーから約2万7千人のランナーが通り過ぎるまでには3時間以上かかります。次から次へと走ってくるため、昼食をとる暇さえありませんでした。その意味では、ランナーだけでなく応援する子ども達にとっても応援マラソンでした。

『子ども達はなぜ頑張れたか？』

ランナーの中には保護者や先生の姿もあり身近な存在であったこと、また子ども達の声援や踊りに走りながら手を振って応えてくれるランナーもいたので熱も入り、必死に応援できたようです。逆に「頑張っ！」と声をかけてくれるランナーもいました。これも子ども達には励みになりました。

子ども達の声援や応援は大人のそれよりも確実に伝える「力」が強いと思います。純粹でストレートで一生懸命さが直接伝わります。相手側も素直に受け止め、それを力に変えることができます。より一体感が生まれやすくなるのではないのでしょうか？ランナーも一生懸命、応援する側も一生懸命、これは先に述べたラグビーワールドカップの成功の一因である「ワンチーム」と共通すると思います。お互いが元気をもらいワンチームとなって成し遂げる！子ども達がこの素晴らしい体験をできたことは大変貴重であり、子ども達一人ひとりにとってレガシー（遺産）となるかもしれません。小中ブロックのスローガンにもある『自分を認め、相手を認め』にふさわしい体験だったのではないのでしょうか。

今後も様々な活動を通じて、子ども達にはたくさんのレガシーを積み上げていってほしいと思っております。

